



外国出張報告書

平成 27年 8月 23日

1. 出張国名 マダガスカル
2. 出張月 平成27年7月
3. 出張目的 「アフリカの貧栄養土壌における効率的なイネ増収技術の開発」に関する F/S 調査：D

4. 成果の概要

次期プロ案「アフリカの貧栄養土壌における効率的なイネ増収技術の開発」を実施する候補地域の一つとして、アフリカ最大のコメ生産国であるマダガスカルを訪問した。現地の関係機関に対して、次期プロ構想を説明するとともに、マダガスカルにおける稲作研究の現状およびJIRCASがプロジェクトを展開する上で先方が期待する研究課題について情報収集を行った。現地研究機関である FOFIFA (マダガスカル国立農村開発応用研究センター) は育種部門・圃場試験において、LRI (アンタナナリボ大学放射線研究所) は土壌肥料・GIS・土壌分析において有望な設備や人材を有しており、生産性の高い連携が期待できると考えられた。また、現地での活発な研究活動と両機関のソフト・ハード面での研究能力向上を達成するための手段として、SATREPS 応募について説明をして、申請書の共同作成を開始した。さらに、プロジェクト開始後の候補試験地を選定するため、稲作生態および土壌条件が異なる9つの農村集落を訪問して、計22地点の表層土壌を採取、うち13地点の土壌を用いて、窒素、リン、カリウム、および硫黄の養分欠乏を把握するためのポット試験を開始した。土壌分析およびポット試験が継続中であるが、交通の利便性、圃場の規模、および圃場試験を行うための基盤を鑑みると、試験環境として想定する High-elevation (1500m 前後) の水田、mid-elevation (1000m 前後) の陸稲と水田を網羅する、のべ5集落が圃場試験の実施に適切な候補地点として選択された。